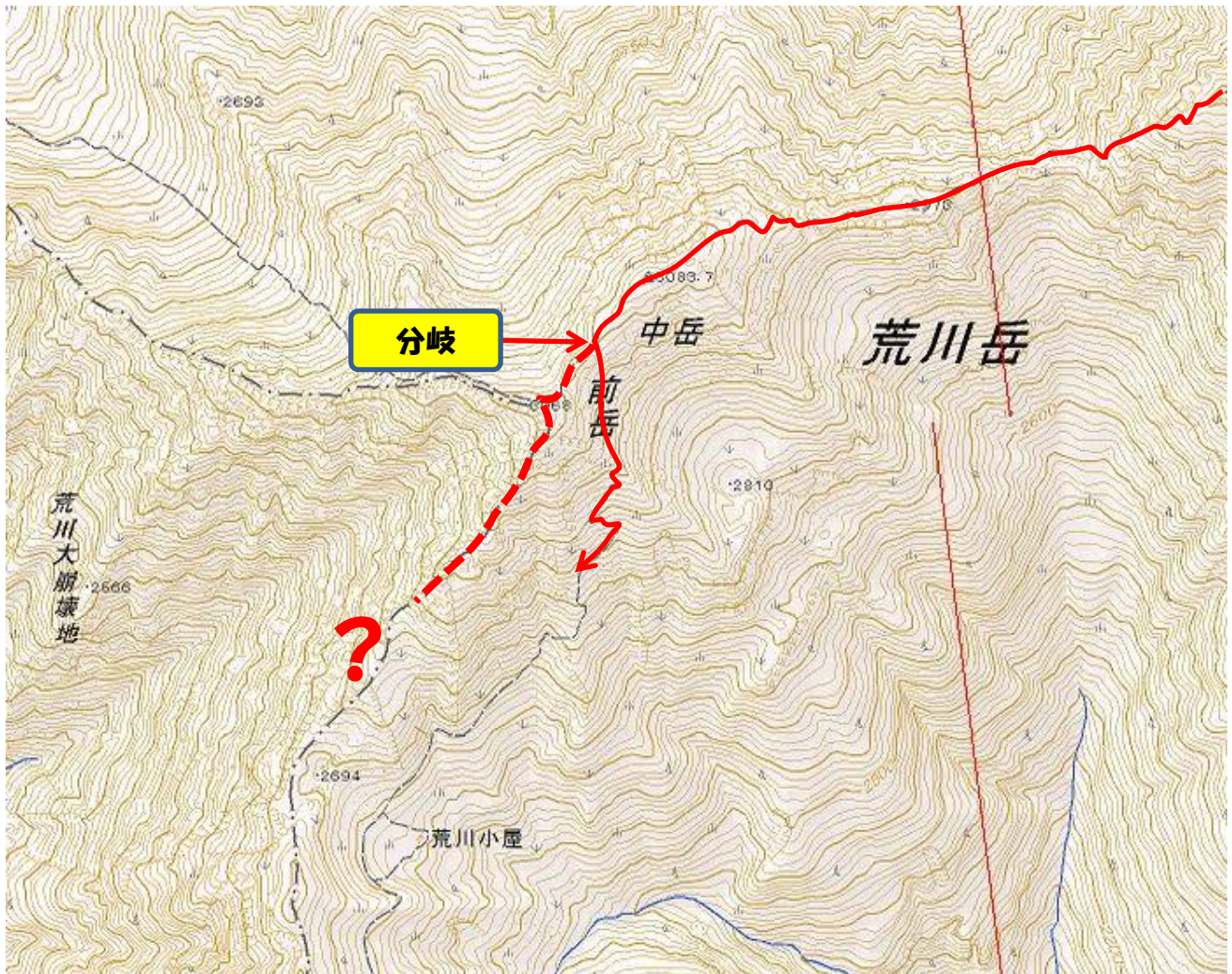


荒川岳道迷い(1980年7月)

荒川岳を縦走し荒川小屋へ向かう。中岳(3083.7m)を通過し、南西に登山道を下る。次第に踏み跡程度になり、しかも傾斜が急になったため、道に迷ったと判断。地図を見ると、前岳と中岳の真ん中のコルからトラバース気味に登山道は付いていた。今いる登山道は、旧道で、「荒川大崩壊地」のため廃道になっていた。現在位置は、「荒川大崩壊地」で確認できた。コルまで戻り荒川小屋に辿り着いた。



解説

3,000m級のアルプスで道に迷うことは、非常に危険だ。

中岳を通過し前岳を通過した。おかしいと思い地図を確認し、現在位置が判断できたところで、冷静な判断がなされている。焦ることなく、雨模様の中、雨具を着け、ゆっくりとコルまで戻り、薄暗くなった雨の中、荒川小屋に着くことができた。

国土地理院の地図は廃道になっている場合でも、そのまま地図に記載されている道も多い。このため、地図が分かるが故の道迷いも発生している。常に、道が無くなったり、不鮮明になったときには、注意深く道を確認することが必要となる良い事例である。

第1に、「冷静な判断」こそが最大のナビゲーションである。第2に「現在位置を確認する技術力」である。これだけ大きな崩壊地は「荒川大崩壊地」意外に違いない。という「現地と地図」との一致が必要である。常に心がけて地図を確認しナビゲーションをしていきたい。